

浜松ユネスコ科学教室

29年の歩み

(小学生対象)

— 科学する心を育むために —

これまでの取り組みの足跡

- 1958年に中学生を対象とした科学教室がスタート。
- その後、一時休止期間を経て1987年にユ協からの再開の要望に理科教育に熱心な教員が応え、現浜松ユ協会長を中心として活動を再開。
- 本年度で29年目を迎えた。

科学教室のねらい

- 「身近な自然に感動する体験がなければ、素直な心や謙虚さ、そして地球的な視野は育たない」との思いからユネスコ精神をふまえた「科学する心」を育てることを目的としている。



年間スケジュール 2015

月 日	内 容	活動場所
4月29日(水)	〈開講式・科学館見学〉 プラネタリウム	浜松科学館 午前
5月16日(土)	〈生命の不思議〉 チョウと植物 チョウの不思議	浜松科学館 午前
6月13日(土)	〈水と生命〉 微生物とホタル	静岡文化芸術大学 午前
7月 4日(土)	〈富士山の自然〉 新五合目から宝永火口を歩こう	富士山 1日
10月17日(土)	〈郷土の自然史〉 天竜川の岩石 岩石標本をつくろう	天竜川原 1日
11月 7日(土)	〈秋の自然観察〉 木の実探索	佐鳴湖公園 1日
12月19日(土) 26日(日)	〈宇宙への挑戦〉 神秘的な星の世界・冬の自然観察	かわな野外活動センター 1泊2日
1月30日(土)	〈電波の不思議〉 ラジオを作ろう	浜松科学館 1日
2月27日(土)	〈ユネスコと私〉 記念樹を植えよう・閉講式	浜松科学館 午前

運営方法

スタッフの活動、役割

- 浜松ユネスコ協会学校委員会が中心となって活動を進めている。
- 学校委員会には主に浜松市内の小中学校の教員が入っているが、科学教室OBのスタッフもいる。
- 教室の活動準備、資料作成、会場確保、案内送付、子どもの指導だけでなく、自主研修等の実施もする。

● 開講式



チョウ・カブトムシの世界



● チョウ・カブトムシの世界



● 微生物・ホタル



● 微生物・ホタル



● ホソオチヨウ観察会



ホソオチヨウ観察



富士山 宝永火口を歩こ



富士山 宝永火口を歩こ



富士山 宝永火口を歩こ



● 富士山集合写真



● 天竜川 岩石標本づくり



● 天竜川 岩石標本づくり



● 天竜川 岩石標本づくり



● 浜松ユネスコチャリティーウォークに参加



● 浜松ユネスコチャリティーウォークに



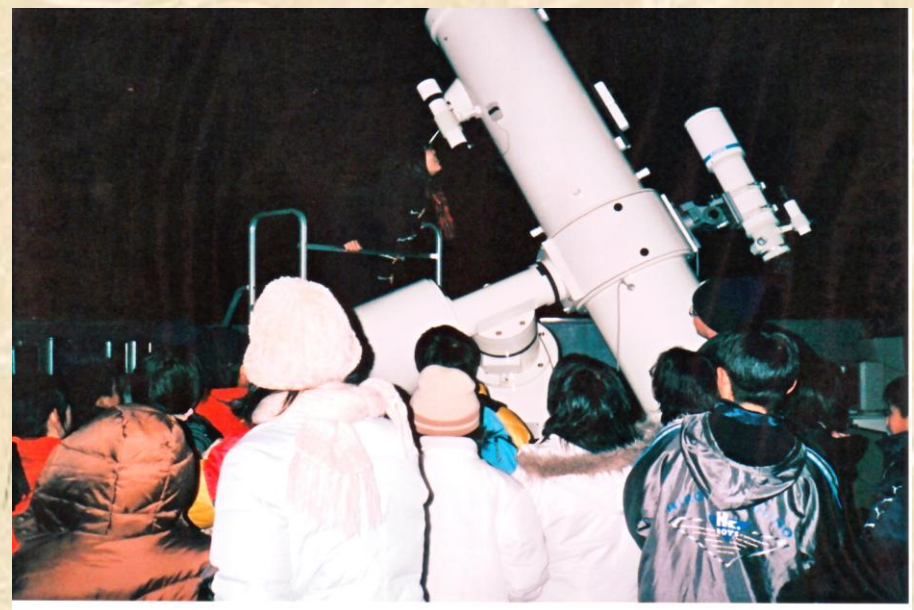
午後から浜松城公園
で樹木と木の実の観
察



● かわな野外活動センターでの活動・自然観察



● かわな野外活動センターでの活動・天体観測



● 閉講式（記念樹の種を植えよう）



● 皆勤賞の授与

● 閉講式



子どもたちの感想



Merci au ciel.

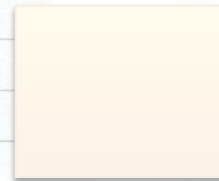
Aujourd'hui, c'est un congé du ciel.
Merci au ciel.
Charme impeccable, ciel impeccable.
Nous sommes peuple des cieux.



感想文

私がユネスコ化学教室を1年間やっての1番の思い出は、やっぱり、1月に行なわれた、星を見る事です。その中でも1番の思い出は、月の表面を見た時です。月の表面は、思ったより黄色くとてもきれいでした。食べ物にたとえると、玉子焼きの色でした。そして表面のボコボコは、思ったのは、ただのボコボコぽこぽこだったけれど、もっときれいなボコボコぽこぽこでした。そして、1年間のユネスコがもうすぐ終わろうとしていると思うと、なんか、悲しくなってきました。

ユネスコは、一生に1度の体験をさせてくれました。



子どもたちの感想

1年間いろいろな学習をして、学校の勉強にもいかされたし初めて会った友達・先生とのかかわりがあり、楽しく過ごすことができました。けんび鏡の使い方や石の勉強、自然観察など、毎回の勉強で覚えたことがたくさんある中で特に石をさがしたことが印象に残っています。

なにげない石だけど、よく見てみるとおもしろいなと感じました。標本にのっている石を全部集めようと思い、一生けん命さがして苦勞しながら全部集めてそろえたことが何より思い出に残ったし、楽しかったです。それから私は、ふだんの生活の中でも「これは何岩かな？」と思うことがあって、ガイドブックを見たりします。学校の(5年の)理科の時間に同じことが出てきたときにも役立ちました。学校ではどの内容でもくわしく調べたり、星のかんそくをしたりしないけれど、科学教室ではかわなに行、てきれいな星空を見ることができました。また、林間学校に昨年の(2006年)11月8・9・10日に行、たけれど、かわなの自然が秋と冬では、またちがった花・草なども見ることができて

子どもたちの感想

ユネスコ科学教室に入っ

伊佐見小

ぼくは、ユネスコ科学教室に入っ、いろいろなことがよく分かりました。

一番心に残ったことは、ホソオチヨウを観察したことです。こんなめずらしいチヨウが天竜川にいます。知りませんでした。それに、毒のあるウマノスクサを食べることが生き残るためにやることだと知っておどろきました。幼虫も初めて見ることで嬉しかったです。

他にモチヤリテイウオークやかわなでは、葉っぱを見るだけで何の木だと分かる先生方がすごいなあと思いました。

ぼくは、元々理科が好きだったけど、もっと大好きになりました。来年もユネスコ科学教室に入ろうと思いました。一年間ありがとうございました。

子どもたちの感想

No.

感想

ユネスコの活動で、一番よかったです。たのびは、天竜川沿いの
石ひろいでした。もともと、学校の帰りに、石をひろって帰ることがあ
ります。だから、よけい楽しかったです。

でもこれより心に残った言葉があります。それは、つい最近
の川名での活動中に、石を投げた人に対しての、ユネスコ
の先生の言葉です。

「あのね、ユネスコの人には、石を投げるんじゃないよ。
こういう言葉です。ぼくは、この言葉に、すごく感心しました。たし
かに、そうだなと思いました。」

このユネスコを通して、観察すること、観察するとは、とても
大切だと分かりました。小さなこゝろ、あたりまえのような発見でも、
それは、自然がくれた、成長のための栄養だと感じます。

この一年だけでも、振り返ると、自分の考えがすごく変わった
と思います。やっぱり、ユネスコに入って、よかったと思いま
す。

子どもたちの感想

エネスコ科学教室に参加して
ぼくは、エネスコ科学教室に参加できて、
とてもうれしか、たです。
二回目にが、た微生物では、小さな世界に
もぐりこんだ感じがしました。
五回目の石ひろいでは、岩石の不思議を学
び、一つ一つ形がちがうという発見をしまし
た。
七回目の星の観察では、宇宙のはてをそう
ぞうして活動に取り組みました。
科学とは不思議が多すぎて、頭では理解でき
ないこともあるけど、それがいいんだし、ぼく
は思いました。これからも不思議なことを見
つけたり、調べたり、確かめたりして科学大
女子でいたいです。

おわりに

科学する人は
素直な心の持ち主でなければなりません

科学する人は
疑問を追究する人でなければなりません

科学する人は
地球の自然を守る人でなければなりません

科学する人は
世界の人々の平和を願う人でなければなりません